

## I 主題設定の理由

「VUCAの時代」と言われる現代。先行き不透明で変化の激しい社会を生き抜いていける人材や持続可能な社会の創り手の育成のために、教職員は常に探求心や学び続ける意識をもつとともに、情報を適切に収集し、選択し、活用する能力や深く知識を構造化する力を身に付けることが求められる。一方、学校を取り巻く課題は、学力向上やいじめ・不登校等の生徒指導に係る問題等に加え、学校規模や実態、地域性に係わる課題も加わり多種多様である。また、今後、教員の大量退職と若手教員の増加に伴い、学校教育力の維持・向上に向けた教員の資質能力の向上と職務等への意識の向上は喫緊の課題である。

特に、新学習指導要領の目指す目標の実現に向け、一人一人の教職員の持ち味を生かしつつ、学び合い、支え合い、お互いが切磋琢磨し、学び続ける教員集団を目指す必要がある。また、児童生徒に自他のよさを認識させ、持続可能な社会の担い手となるよう、学校組織としてどのように取り組んでいくか、持続性、協働性、実効性等の視点を踏まえて研究していく必要がある。

そこで、本地区では「教職員の研修・指導力等の育成」と「教職員の服務」に対する教頭の関わりをあきらかにするため、昨年度に引き続き本主題を設定した。

## 2 研究のねらい

それぞれの研究内容に対する効果的な教頭の関わりについて明らかにする。

## 3 研究の概要と成果

### (1) 教職員の研修・指導力等の育成

#### 【江平小】

夏季休業中に、教職員一人一人が得意とする分野の内容をまとめ、伝達する講習会（講座）を実施した（アンガーマネジメントやマネープラン等）。また、主題研究の内容をより全教職員で共通理解、共通実践できるように「一人一研究授業」を行っている。さらに、保護者対応力の向上を図るため、全教職員で全児童の様子や特性などを共通理解する場を設定している。小規模の学校のため、何事にも臨機応変に対応している。

#### 【山田小】

昨年度から、本校の主題研は教職員間の協働的な学びによる指導実践をテーマに、栄養教諭・養護教諭も含む全教職員が必ず「研究授業」または得意分野の「講座」に取り組む研修形態になっている。研究授業を行った場合は事後研究会として感想やアドバイスを伝え合う場を設定している。本年度はさらに、月1回は互いの授業を参観し合うことにも取り組んでおり、授業力向上の啓発につながっている。

#### 【中霧島小】

役割達成度評価で目標としている項目を確認し、一人一人にあった研修機会を積極的にもたらす、教職員の専門性の向上を図っている。また、個人で受けた研修（インプット）を学校全体に広めるために、研修報告（アウトプット）を行う時間を意図的に設定している。短時間で研修報告ができるように、教務と連携して①文面での報告は、グーグルサイトの中に研修報告のフォルダを作成し、いつでもだれでも研修報告書が見られるようにしている。②口頭での報告は、研修の中で特に学びとなったことを1～2つ報告することにしている。

#### 【笛水小中】

教職員の研修においては、一人一人の業務内容や教員育成指標から必要と思われるものを受講できるよう、個別に声をかけている。なお、受講の際には、時間割の組み合わせを工夫し自習措置にならないよう配慮している。主題研究においては、年度当初の研究推進委員会で、研究主題、研究内容、授業評価の視点等について、意見交換の時間を十分に設定したことと、研究主任を主軸とした校内研修の方向付けを図ることができた。そのことにより、日々の授業において、児童生徒の「個人カルテ」を基に「わ・さ・び」の視点での授業づくりが展開され、研究授業の事後研究会では、教職員が活発に意見を述べる等、授業力の向上につながっている。

#### 【高崎麓小】

本年度、本校は「循環型環境教育の取組」の県指定を受け、総合的な学習の時間にICTを授業に効果的に活用できるよう5・6年担任と共に、授業の組み立て方や、どの場面でどのように活用すれば、協働的な学びにつながるかを協議し、実践も支援している。また、連絡会や職員研修の時間を活用し「ICTの授業における効果的な活用の仕方」や「オンライン授業公開」を視聴し、そこで学んだICTの活用ポイントを職員へ周知することで、各学年の授業へとつなげられるよう指導・支援を行っている。

#### 【高崎中】

本年度から「教職研修プラットフォーム・研修受講歴記録システム（Plant）」の運用が始まった。それに伴い、校内研修において「Plant」運用に関する研修を実施した。本システムを積極的に活用することで、今後の研修受講の計画や自己の研修のふりかえり、教員としての資質向上を図るよう促した。

また「一人一研究授業」では、「わ・さ・びの視点を取り入れた授業」や「ICTの活用」を推進し、研究授業や事後研修会を実施したことで授業力の向上につながっている。加えて、教員育成指標に合わせたキャリアアップについて指導・助言を行った。

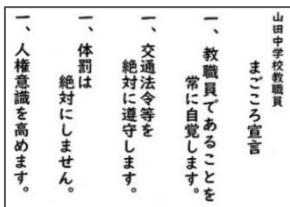
## 【山田中】

教員一人一人の授業改善やICTの効果的な活用を図るために生徒用端末やキュビナ、大型テレビ、「わ・さ・びの授業」の活用回数を記入する「生徒用端末等の活用状況シート」を作成した。これを毎月記入し、提出してもらうことで回数が増加した。また、生徒主体の授業の様子をHPに掲載することで、教員の意欲につながっている。

### (2) 教職員の服務

## 【山田中】

教職員一人一人のコンプライアンスの向上には意識の高揚が不可欠であり、学校独自に作成した「教職員宣言」を全職員に配付し、職員室に掲示している。



また、毎週月曜日の職朝の際に全職員で唱和している。

## 【木之川内小】

教職員のコンプライアンス遵守のため、月2回、「コンプラミニ研」という研修で、コンプライアンスに関する事例を示し、教職員に考えさせる場を設定している。また、毎月一回コンプライアンスチェックシートを基に、教職員一人一人に自らの言動等をふり返らせ、特に、注意すべき課題が浮き彫りになった場合は、職員研修等で注意喚起を行った。さらに、個人情報紛失に対する意識を高めるため、職員がシュレッダーをかける時に見える場所に「1枚ずつ確認を!」「個人情報が含まれていませんか?」というシールを貼る等の工夫を行った。

## 【笛水小中】

本校では、年度初めに研修を行うだけでなく毎月初めに「コンプライアンスチェックシート」による自己分析と「県コンプライアンス通信」等を用いた注意喚起を行っている。また、夏季休業には、コンプライアンス推進委員会を開催し、取組事項、遵守事項、行動計画の見直しを行った。特に、準公金等の不適正な取扱いを防止するために、年度初めに管理職で現金の取扱いや支払いに関して確認・改善を行い、職員への周知・徹底を図ることで、ミスや不祥事を未然に防ぐことに繋がっている。

## 【縄瀬小】

職員の多忙感と児童数の減少から、不適切な指導が起りやすい状況がある。そこで、生徒指導提要に「不適切な指導」が明記された経緯や事例の理解、不適切な指導の制止演習こそが抑止につながると考え、次の研修を行った。①「指導死」や「不適切な指導」の事例、②「不適切な指導の場面に出会ったらどう制止するのか」の役割演技。研修を行ったことで、「指導死」が93件(そのうち指導当日や翌日に自殺したケースが57%)あったことを重く受け止めていた。役割演技では、制止の難しさを共感しつつ、勇気ある言動が

子どもも同僚も救うことになることを共有することができた。

## 【高崎小】

本校から不祥事を出さないために、重点取組・遵守事項について、グーグルフォームを使って意識調査を行った。その結果、「体罰・暴言等の防止」のための「納得感を得る指導」について課題が見られた。また「コンプライアンス遵守のために心がけていること」を、グーグルドキュメントに書き出し、他の教師がどのようなことを意識しながら指導を行ったり、法令遵守に取り組んだりしているのかを共有することで、コンプライアンス推進に向けて意識を高めることができた。さらに、SD (Safe・Driver) カードを紹介することにより、交通安全への実践意欲を高めることができた。

## 4 今後の課題

### (1) 教職員の研修・指導力等の育成

- 教職員一人一人がやりがいや誇りをもって能力が發揮できるような研修内容や形態の工夫が必要である。
- 「目標設定ミーティング」「中間ミーティング」「フィードバック面談」とリンクし、研修履歴「Plant」を活用した対話に基づく研修受講奨励の手立てを工夫する必要がある。
- 「ICT活用スキルの向上」を、個別最適な学びで研修できる体制を工夫する必要がある。

### (2) 教職員の服務

- 管理職からの一方的な提示だけでなく、アンケートの結果やタイムリーな話題等を提示したり、KJ法やバズ学習等を用いたりして、協働的な学びとなるよう工夫をする必要がある。
- 「ファーストステージ」や「セカンドステージ」の職員には、法令を守ることだけでなく、「倫理意識をももって行動する」「人々の期待や社会の要請に応える」等の高次な意識を涵養する必要がある。
- 「ミドルステージ」や「トップステージ」の教職員には、「教職員としてのモデルである」という自覚を育む必要がある。